

国内宿泊観光旅行の実態調査

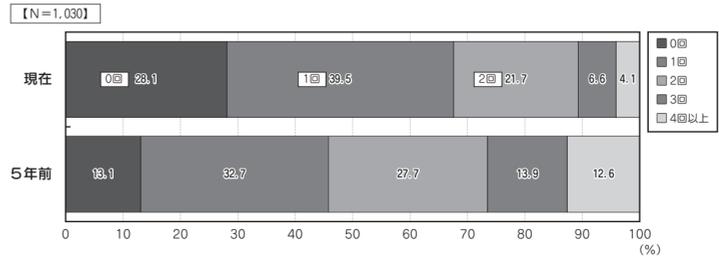
年間0回は、若年層4割、家族層3割

2009年度版 観光白書

家族層の動向

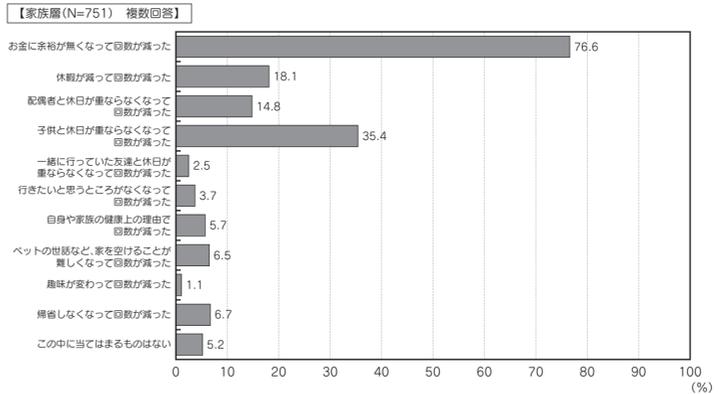
家族旅行ゼロは28.1%

若年層の年間国内宿泊観光旅行回数(5年前との比較)



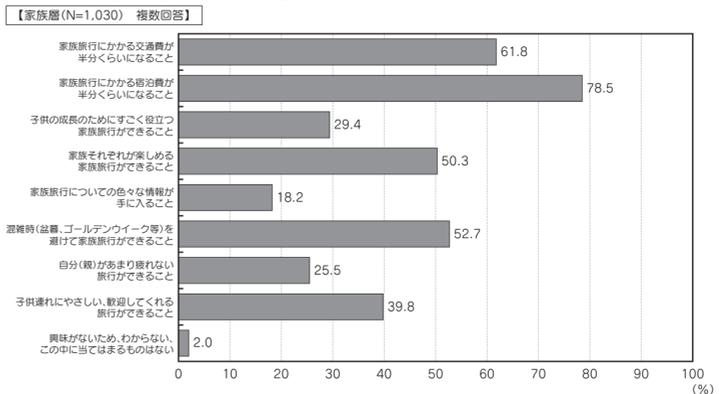
家計に余裕なし、76.6%

家族層の国内宿泊観光旅行の減少理由



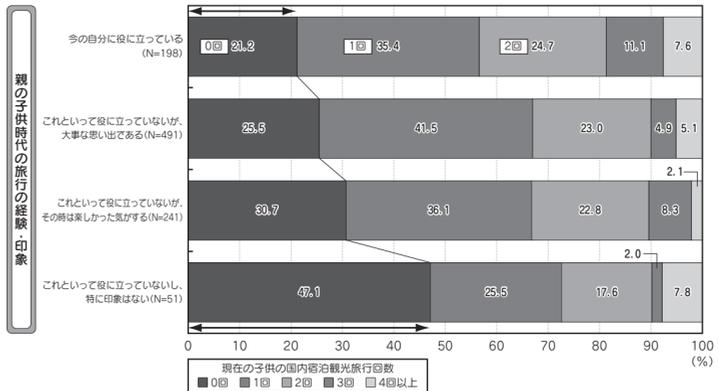
費用軽減や混雑回避が必要

家族旅行の回数を年間に1回増やす条件



子供時代の旅行経験が大切

親の子供時代の旅行の経験・印象とその子供の旅行回数



経済的に余裕がなく、休暇も取れず

2日に公表された2009年度版観光白書の中で、観光庁は国内宿泊観光旅行について、インターネット調査の結果などを基に近年の低迷要因を分析した。旅行回数減少の理由には、所得・休暇の減少などが大きく影響していることが分かった。

日本人1人当たりの観光を目的とした国内宿泊旅行は、国の承認統計「旅行・観光消費動向調査」の結果によると、旅行回数は07年度が年間1・50回、08年度が1・55回(暫定値)。宿泊日数は07年度が年間2・42泊、08年度が2・44泊(同)と低迷している。

観光庁は観光白書への掲載を念頭に、09年2月、「日本人の旅行行動に関する実態調査」と題し、約1万8千人を対象にインターネット調査を実施。特に国内観光旅行の活性化に重要な位置を占める若年層、家族層などに注目した。

若年層(20歳代、大学生または社会人(子供なし))では、直近1年間の旅行回数がゼロだった層が20代前半で41・3%、20代後半で34・1%にも上った。ゼロだった割合は5年前よりも10%前後上昇している。

5年前より旅行回数が減少した理由を複数回答で聞くと、「お金に余裕がなくなった」「休暇が減った」「友だちと休日が重ならなくなった」「友だちと休日が重ならなくなった」が、大学生と上位3位だった。経済的余裕がなくなった理由には、「所得や仕送りの減少に次いで、貯蓄に回すため」という回答が多かった。

家族層(小学生の子もいる世帯)では、直近1年間の旅行回数がゼロだった層が全体の28・1%に及んだ。ゼロだった割合は5年前より15%も上昇し、2回以上の層も減少している。

減少理由はお金に余裕がなくなったがトップ。次に子どもと休日と重ならなくなった。また、家族旅行の回数を増やす条件には、「宿泊費が半分になる」「交通費が半分になる」「混雑時を避けられる」などが挙げられた。

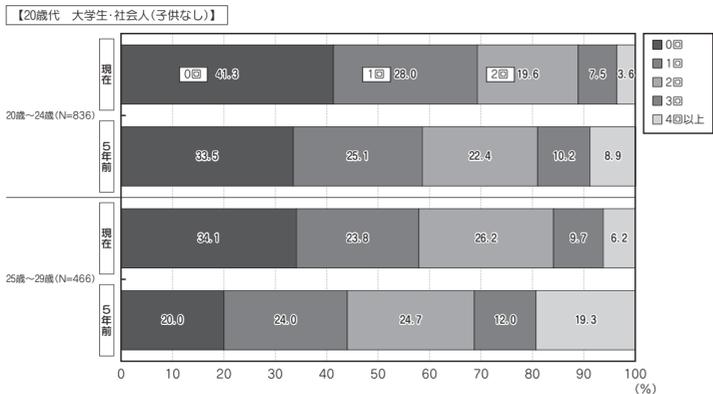
一方で、旅行回数を増やしたいとする回答は、家族層で86・8%、20代大学生で55・6%、20代社会人で62・0%に達した。若年層のうち年間旅行回数がゼロだった層でも、4割以上が旅行回数を増やしたいとの意向を持っていることも分かった。

若年層の動向

N = 回答数

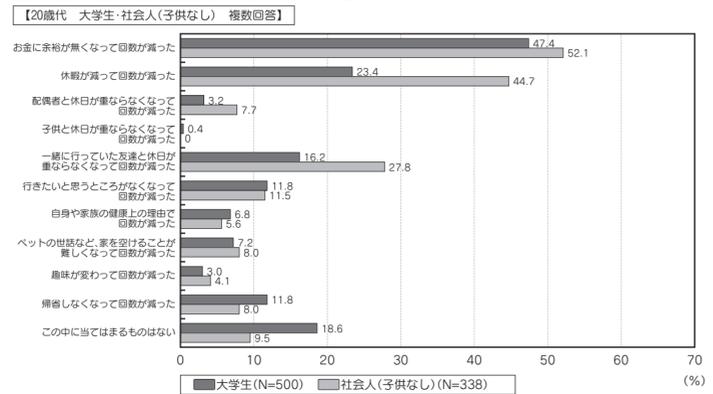
20代前半の旅行ゼロは41.3%

若年層の年間国内宿泊観光旅行回数(5年前との比較)



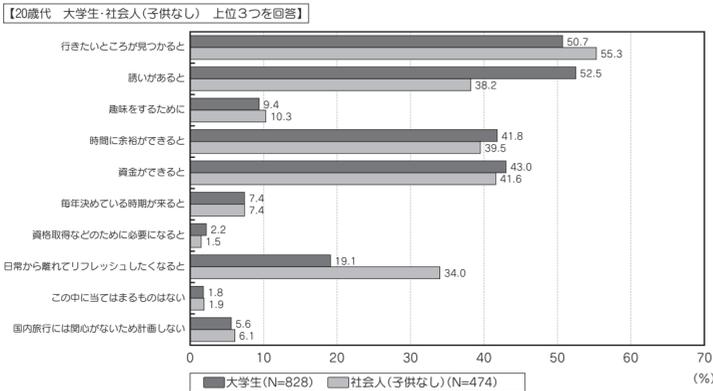
旅行減少理由はカネと時間

若年層の国内宿泊観光旅行の減少理由



「行きたい所が見つければ」

国内宿泊観光旅行に出かけるきっかけ(若年層)



調査データ